OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	メタフュシカ　第33号　彙報/奥付
Author(s)	
Citation	メタフュシカ. 2002, 33, p. 183-184
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/66673
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

●哲学哲学史

現在、専門分野・哲学哲学史には、学部学生二年生八名、三年生七名、四年生十三名(哲学・思想文化学専修所属)、大学院生博士課程前期課程八名、後期課程十名が在籍しており、里見軍之、山形頼洋、入江幸男、吉永和加の各教官が専門分野・文科基礎学、現代思想文化学および臨床哲学所属の各教官と連携しつつ、教育・研究指導にあたっている。

本年度の講義・演習は、「H.-G.Gadamer: Wahrheit und Methode, I、II」「ドイツ哲学基本文献読解I」「近代哲学史」「現象学の根本問題」「現代哲学概説」(里見教授)、「フランス哲学基本文献読解II」「十七世紀西洋哲学研究」「西田哲学研究」(山形教授)、「指示と問答(3)」「正当化主義の可能性」「論理学初歩I、II」「Kant: Kritik der Urteilskraft」(入江助教授)という題目で行われている。また、その他に、現代思想文化学所属の教官・学生と合同で、修士論文や博士論文の作成演習が定期的に開かれ、活発な発表、討論がなされている。

非常勤講師としては、伊豆蔵好美先生(奈良教育大学)、鹿野忠良先生(本学理学部)、藤本温先生(佐世保工業高等専門学校)をお招きし、先生方にはそれぞれ、「ホップズと十七世紀哲学の諸問題III」(伊豆蔵先生)、「認識論講義—文科と理科に橋は架かるか—」(鹿野先生)、「中世スコラ哲学のインテンティオ論」(藤本先生)という題目で講義をして頂いている。

(吉永)

●現代思想文化学

現在、専門分野・現代思想文化学には、学部学生二年生八名、三年生七名、四年生十三名(哲学・思想文化学専修所属)、大学院生博士課程前期課程六名、後期課程七名が在籍しており、浅野遼二、溝口宏平、望月太郎の各教官が専門分野・文科基礎学、哲学哲学史および臨床哲学所属の各教官と連携しつつ、教育・研究指導にあたっている。

本年度の講義・演習は、「『歴史の形而上学』研究」、「『宗教の形而上学』研究」、「『生命の形而上学』批判」、「ヘーゲル弁証法の研究」、「ニーチェ『生の哲学』研究」(浅野遼二教授)、「M・ハイデガー『存在と時間』の研究I、II」(溝口宏平教授)、「フランス哲学基本文献読解I」「十七世紀フランス思想研究」「十八世紀フランス思想研究」(望月太郎助教授)という題目で行われている。また、その他に、哲学哲学史所属の教官・学生と合同で、修士論文や博士論文の作成演習が定期的に開かれ、活発な発表、討論がなされている。

非常勤講師としては、中敬夫先生(愛知県立芸術大学)をお招きし、「ビラン研究の現在」という題目で講義をして頂いた。

また、九月二十九日、Theo VERBEEKユトレヒト大学教授・オランダ王立科学アカデミー会員をお招きして、デカルト哲学に関する研究討議を阪大で開催し、盛況であった。

(望月)

●臨床哲学

専門分野・臨床哲学には本年度、博士前期課程に七名、同後期課程に十二名在籍しており、鷲田清一、中岡成文、本間直樹、紀平知樹の各教官のもとで個別研究を行うほか、哲学カフェなどの哲学的対話の主催を含め、学内外のさまざまな活動とリンクし、そのプランづくりや実践に参加している。このような臨床哲学の活動については、臨床哲学論考集『臨床哲学』第四号、および季刊『臨床哲学のメチエ』十号(特集:分散する臨床哲学)を通じて公開されている。また上記機関誌を含め、本専門分野の研究並びに社会活動については、ホームページ(http://www.let.osaka-u.ac.jp/clph/)でも読むことができる。また本年度より、臨床哲学の一部を社会活動へと接続すべく、文部科学省科学技術振興調整費(科学技術政策提言)を受け、プロジェクト「臨床コミュニケーションのモデル開発と実践」(http://www.let.osaka-u.ac.jp/clph/teigen/t_index.htm)を立ち上げ、他の研究機関および研究者の協力のもとで主に対話型コミュニケーションを中心とした科学技術と社会とのインターフェースを作りに取り組んでいる。

今年度開講されている講義・演習は、次の通りである。(文学部倫理学専修対象のものも含む。)「関わる・演ずる・結ぶ(1)(2)」「臨床哲学研究(1)(2)」(鷲田教授、中岡教授、本間講師)、「ひとは何を欲求するか(3)(4)」「西洋近代倫理思想史概説(学部生対象)」(中岡教授)、「時間論」「ヘーゲル『法の哲学』を読む」「邦語哲学・思想文献購読I、II」(鷲田教授)、「進化と倫理III、IV」「現代倫理思想の諸問題I、II」「コミュニケーションの技法と実践」「倫理学概論(学部生対象)」「倫理学の研究方法(学部生対象)」(本間講師)、「応用倫理学の文献を読む」(品川哲彦非常勤講師)、「カントの倫理学」「生命操作の倫理的課題」(霜田求非常勤講師)。

(本間)

【編集委員会】
『メタフュシカ』第三十三号編集委員
委員長　里見　軍之（哲学哲学史・教授）
望月　太郎（現代思想文化学・助教授）
本間　直樹（臨床哲学・講師）
補佐　紀平　知樹（臨床哲学・助手）

メタフュシカ　第三十三号

平成十四年十二月二十日　印刷
平成十四年十二月二十五日　発行

編集兼
発行者　大阪大学大学院文学研究科哲学講座
〒五五〇-〇〇二三　豊中市待兼山町一-五

印刷所　株式会社　ケーエスアイ
〒五五七-〇〇六三　大阪市西成区南津守七-十五-十六